[トピックス]

古くて新しい水稲の害虫「イネカメムシ」

イネカメムシ（写真１、２）は、水稲の斑点米（写真３）を生じさせるほか、出穂直後から水田に飛来して不稔（写真４）を引き起こす斑点米カメムシ類の一種です。かつては水稲を加害するカメムシ類の主要種でしたが、1960 年代以降にその発生量は減少しました。しかし、近年、西日本を中心に、本害虫の被害が増加傾向にあります。

県内での発生調査では、令和５(2023)年度までほとんど確認されませんでしたが、令和6(2024)年 10 月 17 日現在、15 市町で確認されています（図）。また、**一部の地域においては、本害虫の多発ほ場も確認されています**（写真５）。

本害虫は、従来の斑点米カメムシ類よりも稲への嗜好性が強く、出穂直後から穂を加害することにより、不稔籾が発生して大幅な減収を引き起こします。

特に、今年発生が多かった地域では、来作以降の発生に注意が必要です。本害虫の発生が見られる場合は、出穂初期からの薬剤防除を実施しましょう。また、確認されていない地域でも、ほ場内外での発生状況をよく確認し、発生を確認したら防除を実施しましょう。

写真１　水稲穂上の成虫

写真２　雑草（メヒシバ）上の幼虫

写真３　斑点米

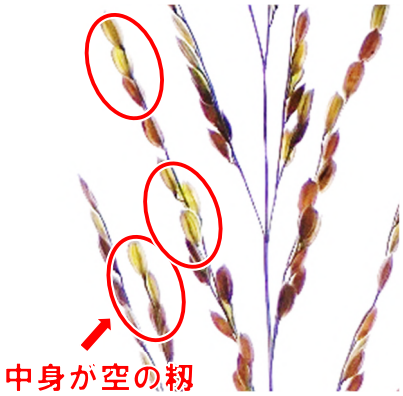

写真４　出穂直後の加害により不稔となった稲穂

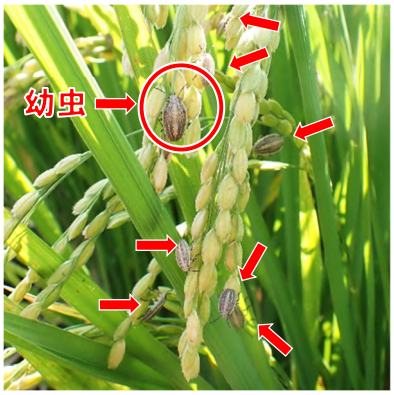

写真５　水稲多発ほ場の幼虫

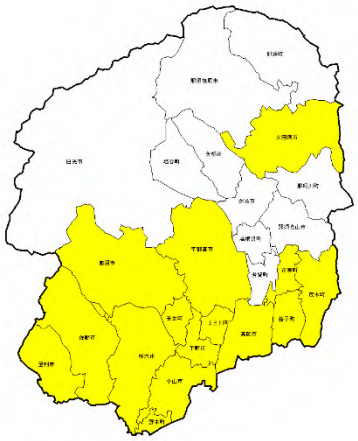

図 県内の発生状況

※黄色：発生確認市町

（令和 6(2024)年 10 月 17 日現在）

（環境技術指導部 防除課）